

医師の数だけ、「思い」がある。

# 札幌医人伝

札幌には、各分野の第一線で活躍する医師たちがいる。  
情熱のカタチは異なっても、患者のことを思う気持ちには変わりはない。  
そんな「医人」たちの横顔に迫ってみた。

第1回



低侵襲手術(MIS)の利点は、背筋の損傷を最小限に抑えることにより術後のダメージを軽減させること。腰椎椎間板ヘルニアの場合なら、傷はわずか2cm程度ですむという。

脊椎治療専門整形外科医

医療法人 札幌円山整形外科病院

## 小熊大士

Oruma Hiroshi



アメリカへの臨床研修、国際学会参加など、海外での実績も数多い。

大切なのは  
その人のリズムに合わせた  
治療を見極めること

オトン世代にとって避けて通れない身体の悩みのひとつに、腰痛が挙げられる。長時間の歩行に支障をきたす痛みや痺れで趣味も思うように楽しめない、読者の中にはそんな方もいるのではないだろうか。体幹の中軸を成す脊椎には様々な組織が集中しており、加齢によって変化が生じることは事実。時にはそれが椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などを引き起こすこともあるが、だからと言ってすべてを「年だから仕方ない」とあきらめる必要はない。「大切なのは、自らの生活リズムに合わせて症状と付き合っていくこと」と、札幌円山整形外科病院で副院長を務める小熊大士先生は教えてくれた。

「僕はまず、患者さんがどう治りたいのか、ということを知ります。例えば同じ80歳でも、ゴルフに行きたい人から海外旅行したい人、かたや家の中しか歩かない人や、ただ毎日眠れるように痛みを取ってくれさえすればいいという人……色々な人がいるわけです。そういう場合には同じ病態でも治療や手術方法が変わりますし、患者さん個々の背景をよく理解して、お互い同じ感覚で治療に臨んでいかないといけないですよ。なので、手術をするのかしないのか、しないなら今の症状とどう付き合っていくか? という相談を、事前にしっかりとします。投薬や注射などの保存治療にも限界はありますが、手術を受けることによってその患者さんが希望するゴールに到達できるかどうかという観点で診ていくこと

が多いです」  
脊椎外科のスペシャリストである小熊先生がいち早く行ってきた低侵襲手術(MIS)は、手術用の顕微鏡を用いて患部の切開を必要最小限にとどめ、術後の侵襲(痛みや筋力低下、違和感などの身体的負担)を軽減する方法として近年注目を浴びつつある。

「僕自身20代の頃にヘルニア手術を受け、術後悩まされたことがありますが、腰を切られたことは今思っても衝撃だったし、痛みもありましたしね。そういった経験もあって、患者さんのためにはできる限り小さい手術で身体的ダメージを抑えたいという意識が自ずと高まっていったんです。自分が手術を受ける立場だったということから、低侵襲手術を積極的に取り入れたひとつのきっかけになったのは確かですね」

病を患った側から実感した思いが医師としての現在に影響を及ぼしている点は、それだけではない。原因と病態はこうで、治療すると改善する可能性が何割くらい、といった情報を明確に伝えて患者の不安をできる限り取り除くことも、治療を進める上で欠かせない重要なプロセス(インフォームド・コンセント)のひとつと考える。手術の数日前には本人や家族らと手順確認、最終的な意思共有のための話し合いの時間を設けるが、その際、決して安易に「大丈夫」「安心してください」とは言わない。しっかりと筋道の通った説明がどんな気休めよりも固い信頼関係を築くことを、過去の実績から確信しているからだ。「ただ病気を治しているだけではなく、人も治しているという感じですよ」とは、取材中特に印象に残った言葉。来院する患者さんといついつい話し込んでしまうことも多いそうだが、「去年トルコに行ってきたんだよ」「この間初めてホーラインワンを出したの」という何気ない会話も、その人が望んだ生活をしっかりと取り戻せたことが分かる立派な治療経過報告なのだ。ひとりひとりの個性を尊重し、それぞれが人生を謳歌するための手助けをすることに、「医人」はこの上ない喜びを感じる。

患者さん個々の背景をよく理解して、  
お互い同じ感覚で  
治療に臨んでいかないといけないですよ。



### PROFILE

1970年生まれ、小樽市出身。1995年札幌医科大学医学部卒業、同整形外科入局。2001年、医学博士号取得。2010年、札幌医科大学整形外科非常勤講師。2011年、日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医資格取得。2012年4月より、札幌円山整形外科病院副院長を務める。

オフィシャルホームページ  
<http://www.ogumahiroshi.com/>

「40〜50代は職場でも家庭でも多忙を極める年代で、症状があってもすぐには病院を受診せず、痛みには耐えている方が多いと思います。診断を受ける際には、現在の病状を正しく理解して、治療の必要性があるかを判断することが大切です。手術を受けるのは、保存治療で頑張れるところまでは頑張った時でも遅くないと思います。背部筋群のダメージを抑えるという低侵襲手術の特性を考えれば、本当に悪い部分を絞り込むということが重要になってきますから。これからも、患者さんが上手に自分の身体と付き合いながら楽しく生活ができるお手伝いをしていきたいですね」

医療法人  
札幌円山整形外科病院



札幌市中央区北7条西27丁目1-3  
TEL.011-612-1133  
診療時間 9:00~12:00 13:30~17:00(土曜は午前のみ) 日曜休診  
<http://www.maruyama-seikeigeka.com/>